



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより 10月号 巻頭言～

令和8年9月30日(水)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～「がんばってるね」がつながる学校～

先日、放課後の「宿題広場」をのぞいてみると、一人の子が机に向かって、一生懸命宿題に取り組んでいました。分からないところでは少し手を止めながらも、最後まで自分でやり切ろうとしている姿が印象に残りました。

別府小学校では、放課後に「宿題広場」を行っています。子どもたちが宿題をしたり、分からないところを教えてもらったりしながら、安心して過ごせる場です。ほぼ毎日開いており、放課後の時間を使って、子どもたちはそれぞれの宿題や学習に取り組んでいます。

ここで宿題を終えて家に帰ったとき、お家での第一声が「宿題しなさい」ではなく、「もう宿題しているの、えらいね。」という言葉に変わっていったら、とても素敵だなと思っています。子どもたちにとって、できたことや頑張ったことを認めてもらえることは、次の「やってみよう」につながる大きな力になるからです。



放課後宿題広場の様子



現在、別府小学校の学校運営協議会では、この宿題広場で子どもたちを見守ってくださる地域や保護者の皆様のボランティアを募集しています。

難しいことをお願いするものではありません。子どもたちのそばにいて、「がんばってるね」「ここ、できたね」と声をかけていただく。それだけでも子どもたちにとって大きな力になります。学校の先生とはまた違う地域の方や保護者の方と出会い、見守ってもらうことが、「自分のことを気にかけてくれる人がいる」という安心感につながっていけばうれしく思います。ご都合のつく方には、ぜひお力をお貸しいただければと思います。

先日行われた9月の参観・懇談にも、多くの保護者の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。子どもたちは、いつもとは少し違う表情を見せながらも、お家の方に見てもらえることを、どこかうれしそうに感じているように見えました。

参観日は、子どもたちの姿を見ていただく大切な機会ですが、それと同時に、学校が今どのようなことを大切に、どのような取組を進めているのかを知っていただく機会でもあると考えています。今年度も学校の取組紹介として、9月には「学力向上の取組」と「進路指導について」お伝えしました。当日参加することが難しかった方も、学校から配信した取組報告動画をご覧くださいければと思います。

参観・懇談後のアンケートにも、多くのご意見をいただきました。温かいお言葉はもちろん、ご意見やご提案も、学校をよりよくしていくための大切な声です。いただいた声を受け止めながら、できるところから少しずつ改善し、その変化もまた皆様にお伝えしていきたいと思っています。

10月以降も運動会をはじめ、各学年の取組や学校行事が続きます。また、地区体育祭や別府リンピックなどの地域の中で子どもたちが多くの人とつながる機会も予定されています。ぜひ、多くの参加をよろしくお願いします。子どもたちは、学校だけで育つものではありません。家庭や地域の皆様に見守られ、声をかけてもらい、いろいろな人とつながる中で育っていきます。

これからも、子どもたちを真ん中に置きながら、学校・家庭・地域が一緒になって、「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校」をつくっていきたいと思います。